

では独立村として扱われていますが、水口村は長善寺村の枝郷でした。

明治3年(1870)の『郷村高帳』では酒造運上金3分・小商人役銭1貫80文・威鉄砲役銭300文・山運上銀58文5分・刈草山運上銭8貫324文・諸職人運上銀52文を上納しています。熊野神社の棟札に「承元元戊辰(原文ママ)六月建立 平朝臣友康」とありましたが(山形県金石文集)、今は残っていません。また同社には明和3年(1766)に村人が奉納した俳諧額が残っています。

・岩野村

最上氏領から元和8年(1622)新庄藩領となり、下谷地郷しもやちに属しました。『新田本村鑑』には枝郷として山添やまぞえが記されています。明治3年(1870)の『郷村高帳』によれば威鉄砲運上銭300文・小商人運上銭216文・刈草山運上銭1貫256文・山運上銀41匁2分・諸職人運上銀75匁を上納しています。北西にそびえる葉山山頂にあった葉山薬師参詣の表参道にあたり、宿坊もあったとされ上ノ宿かみのしゆく・仲宿ななじゆくなどの地名が残っています。『新田本村鑑』には「葉山の薬師仏者むかし当村より登りしとなり」とあります。参道の道筋には一の滝・二の滝・三の滝などの拝所がありました。

7) 戸沢地域(河西)

14世紀の写経を残す羽黒堂、宮下集落の中世石造物など、白鳥氏の居館を中心とした中世の面影を残す集落

・樽石村

葉山の東山麓の樽石川中流の平野部出口に形成された集落で、縄文時代の黒木沢遺跡くろきざわがあります。中世には小田島荘に属し、垂石郷と称しました。延文5年(1360)仲秋上旬に尼衆貞本元位・比丘尼正悟・尼衆貞平元位がそれぞれ「羽州村山郡小田嶋庄垂石郷羽黒堂」に大般若経写経を奉納しています(羽黒堂文書・瑞

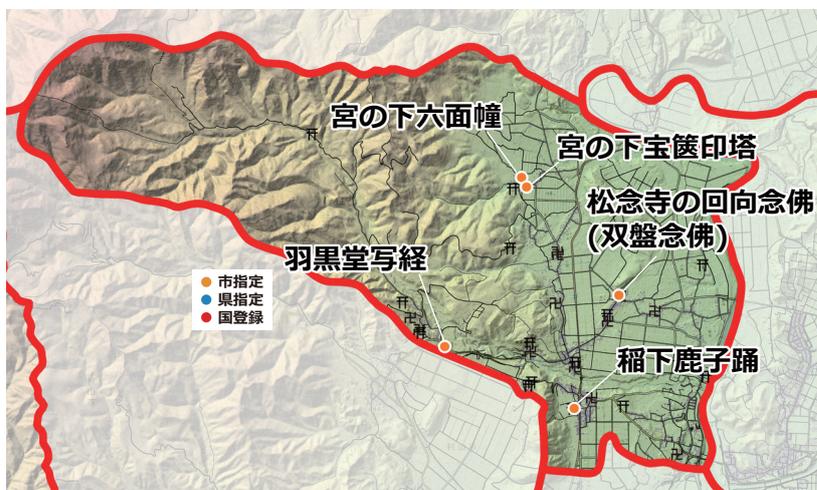


図 16. 戸沢地域の指定文化財

龍院所蔵文書)。羽黒堂文書には貞治3年(1364)孟夏中旬・同年初秋中旬の奥書のある写経もあります。

最上氏領より元和8年(1622)湯野沢村の枝郷として新庄藩領となり、上谷地郷に属しました。明治3年(1870)の『郷村高帳』によれば酒造運上金1分2朱・小商人役銭432文・山運上銭24匁・刈草山運上銭5貫808文・諸職人運上銀42匁を上納しています。

・稲下村

日影ひかげの館跡があり、中世末期に白鳥十郎長久の家臣長善寺右馬頭の居館であったと伝えられます。最上氏領から元和8年(1622)新庄藩領となり、下谷地郷に属しました。当初は大久保村の内でのちに分村します。分村年代ははっきりしませんが、元禄13年(1675)頃

ではないかと考えられています。明治3年(1870)の『郷村高帳』によれば威鉄砲運上銭300匁・小商人役銭216文・山運上銀40匁・刈草山運上銭1貫70文・諸職人運上銀49匁を上納しています。最上川三難所の1つ碁点があり、寛政元年4月の「破船一件書付」(槇文書)によれば、寒河江の八艘屋の米260俵を積んだ船が地内で破船した際、90俵が大濡、18俵が半濡となり、稲下村と貝塩村は濡米30俵を18貫文で入札し、払下げを受けたと記録されています。

・大榎村^{おおまき}

最上川西岸の樽石川下流に位置しています。縄文時代の鹿の子沢A遺跡および奈良・平安時代の川口A遺跡があります。最上氏領から元和8年(1622)新庄藩領となり、下谷地郷に属しました。元和8年の『御前帳写』に大迷之村とあり、『正保郷帳』では大真木村と記されています。明治3年(1870)の『郷村高帳』によれば山運上銀35文と銭500文・小商人運上銭516文・諸職人運上銀四五匁を上納しています。

・長善寺村^{ちようぜんじ}

最上川支流の樽石川中流に位置します。最上氏領から元和8年(1622)新庄藩領となり、上谷地郷に属しました。『新田本村鑑』に「湯野沢村之内何れの頃別村に成候哉不相知なり」とあり、湯野沢村より分村した年月ははっきりしませんが、湯野沢村の項のうちに元禄13年(1700)の当村の高273石余と記されています。文化9年(1812)『吉村本村鑑』によれば、枝郷に水口(みなくち)があります。水口村は『天保郷帳』には湯野沢村枝郷の独立村として記されています。明治3年(1870)の『郷村高帳』によれば酒造運上金1分2朱・小商人役銭216文・山運上銀13匁5分・刈草山運上銭540文・諸職人運上銀31匁を上納しています。

・白鳥村^{しろとり}

最上川は当村の北東部で西方へ大きく屈曲し、三ヶ瀬・隼の難所を形成し、地内には縄文時代の小国沢三ヶ瀬遺跡があります。永禄元年(1558)の『明順坊了勝置文』(金覚寺文書)に「羽州最上郡白鳥邑」とあります。樽石川に張出した丘陵上(標高215m)に白鳥城跡があり、南北朝期から白鳥氏が代々居住したといわれます。館跡近くの宮下(宮之下)集落には中世の石造文化財が豊富に残されています。天文年間(1532—55)と推定される6月11日の『伊達植宗書状』(田村文書)によれば、伊達氏の天文の乱に際し、白鳥氏は植宗側として戦功をあげており、当時の勢力がうかがえます。白鳥氏は十郎長久の代の永禄年間谷地(現西村山郡河北町)に移り、天正12年(1584)最上義光により滅ぼされました。

最上氏領から元和8年(1622)新庄藩領となり、下谷地郷に属しました。『新田本村鑑』によると、宝永6年(1709)の高806石余で、枝郷は富樫在家・中里・道満在家・秋山・新屋敷の5カ所です。天保郷帳には高790石の白鳥村と、白鳥村枝郷として宮之下村があり、高285石余です。明治3年(1870)の『郷村高帳』によれば山運上銀49匁8分7厘・酒造運上金1分2朱・刈草山運上銭9貫826文・諸職人運上銀80匁を上納しています。